



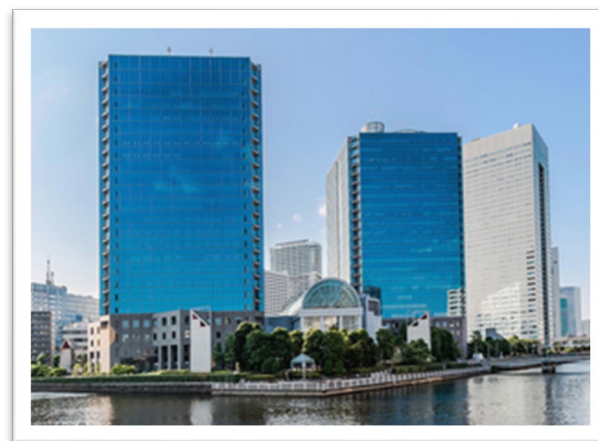
JFE システムズ 株式会社 [4832]

個人投資家向けオンライン会社説明会

2021年7月7日

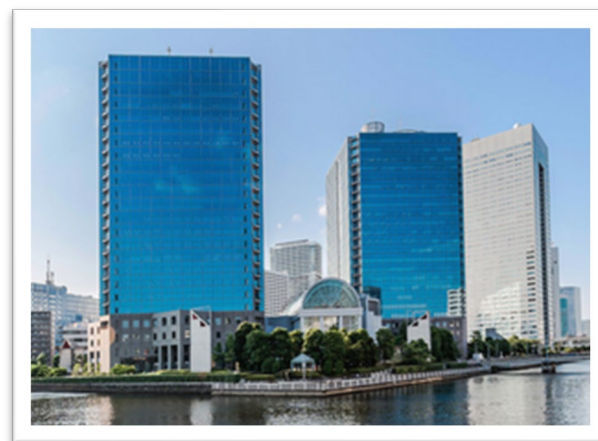
本日のアジェンダ

1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)
4. 成長戦略(次期中期経営計画)



本日のアジェンダ

1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント（＝新たなステージへ）
4. 成長戦略（次期中期経営計画）



会社概要 -1.基本情報

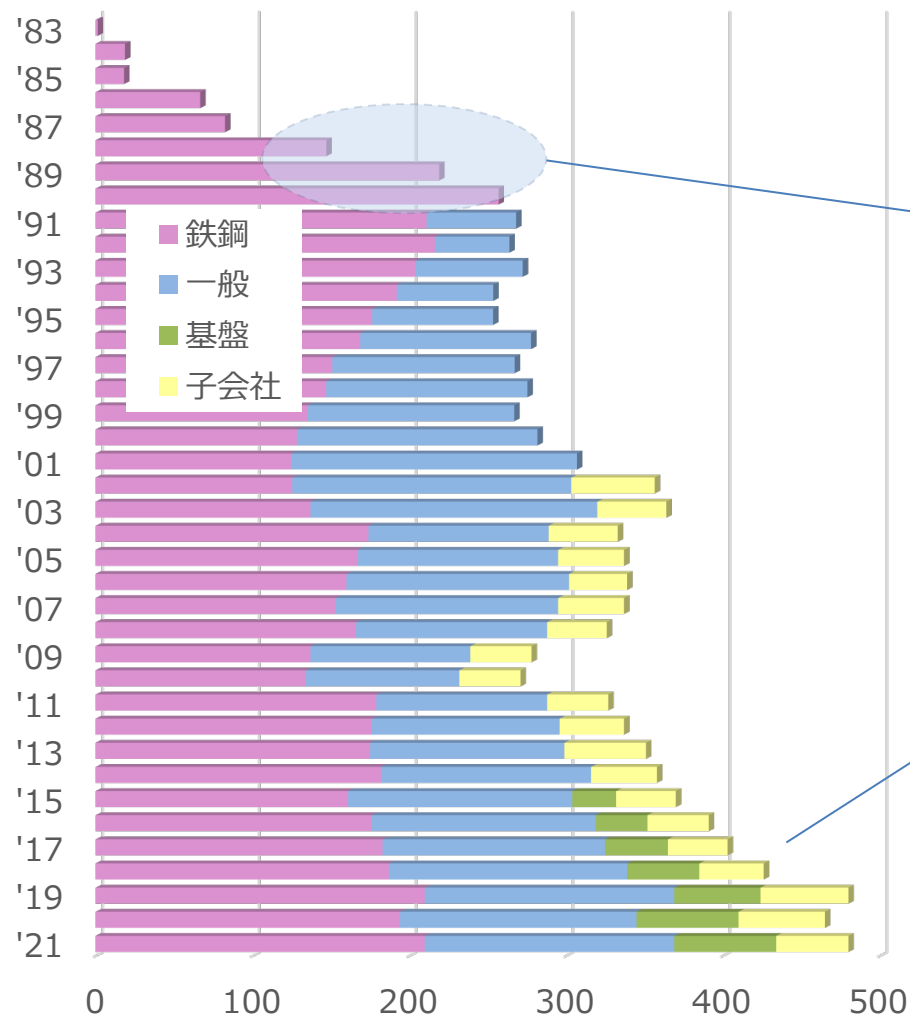


設立	1983年9月1日 (川崎製鉄のシステム部門から分離独立)
資本金	13.9億円
事業内容	情報システムのインテグレーションおよび運用・保守など
売上高	465億円(連結・2020年度実績)
従業員数	1,839人(連結・2021年3月末)
子会社	2 社 JFEコムサービス(株) (株)アイエイエフコンサルティング

会社概要 -2.沿革



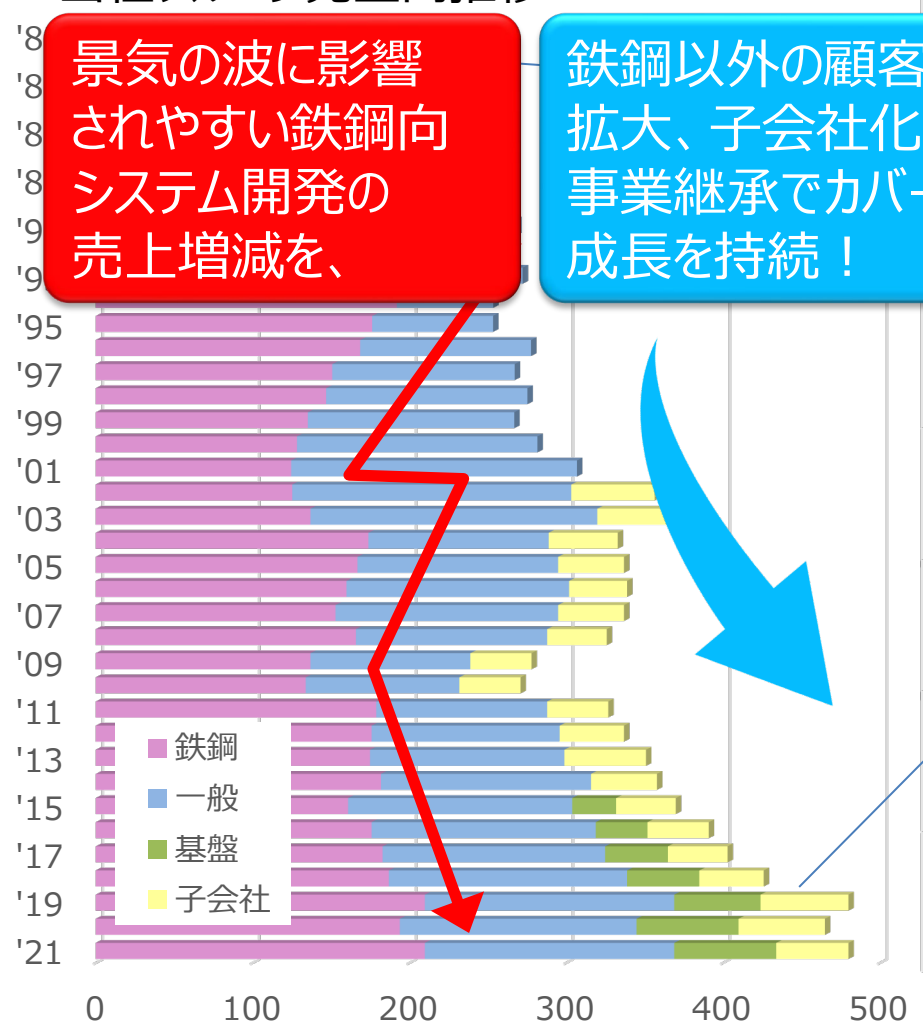
● 当社グループ売上高推移 (億円・2021年度は見通し)



年度	出来事
1983	川鉄システム開発(現JFEシステムズ)株式会社設立
1986-	川崎製鉄(現JFEスチール)株式会社からシステム部門を順次受入れ
2001	東京証券取引所市場 第二部上場
2002	川商インフォメーションテクノロジー(現 JFEコムサービス)子会社化
2011	株式会社エクサ からJFEスチール向け開発・保守事業を承継
2018	首都圏4拠点を集約し、浜松町に本社を移転
2019	株式会社アイエイエフコンサルティング を子会社化

会社概要 -2.沿革

● 当社グループ売上高推移 (億円・2021年度は見通し)



年度	出来事
'83	川鉄システム開発(現JFEシステムズ)株式会社設立
'86-	川崎製鉄(現JFEスチール)株式会社からシステム部門を順次受入れ
2001	東京証券取引所市場第二部上場
2002	川商インフォメーションテクノロジー(現JFEコムサービス)子会社化
2011	株式会社エクサからJFEスチール向け開発・保守事業を承継
2018	首都圏4拠点を集約し、浜松町に本社を移転
2019	株式会社アイエイエフコンサルティングを子会社化

会社概要 -3.組織



部門		事業部・事業所	主な事業
一般顧客部門	ソリューション・プロダクト事業本部	ソリューション事業部	ERP(統合基幹業務システム)とその付帯PKGの構築
		食品システム事業部	食品業界向け自社パッケージによるシステム構築
		プロダクト事業部	電子帳票の自社パッケージによるシステム構築
	ビジネスシステム事業本部	製造流通システム事業部	製造業(自動車等)、流通業等 顧客のシステム開発
		豊田事業所	中京地区に拠点をもつ顧客のシステム開発
		金融システム事業部	金融業(銀行、カード、損保等) 顧客のシステム開発
		関西事業所	関西地区に拠点をもつ顧客のシステム開発
鉄鋼部門		製鉄所システムプロジェクト	JFEスチール各製鉄所のシステム統一PJ
		東京・東日本・西日本・中部 各事業所	JFEスチール本社・各製鉄所(*)のシステム開発 (* = 千葉、京浜、倉敷、福山、中部[知多])
		鉄鋼関連事業部	JFEスチールグループ子会社向けのシステム開発
基盤部門		基盤事業部	システムインフラ(サーバ、NW)、情報セキュリティの整備

ソリューション・プロダクト外事業 ; パッケージ化された製品を単体、もしくは組み合わせてシステムを構築
 ビジネスシステム事業 ; 顧客の要望をもとに、それに見合ったシステムを開発

決算情報 - 1.2020年度決算(損益概要)

- ◆ コロナ禍での顧客のIT投資の停滞などが主因で減収減益。
- ◆ 経費等のコスト削減および年度後半での挽回が奏功し、経常利益は前年比△ 1 億円まで回復。

単位：百万円

	2019年度 実績	2020年度 実績	増減	
			金額	率
売上高	47,953	46,468	△1,486	△3.1%
営業利益	4,803	4,666	△137	△2.9%
経常利益	4,803	4,698	△105	△2.2%
(経常利益率)	10.0%	10.1%	+0.1ポイント	
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,181	3,086	△95	△3.0%

決算情報 -2.2021年度見通し(損益概要)

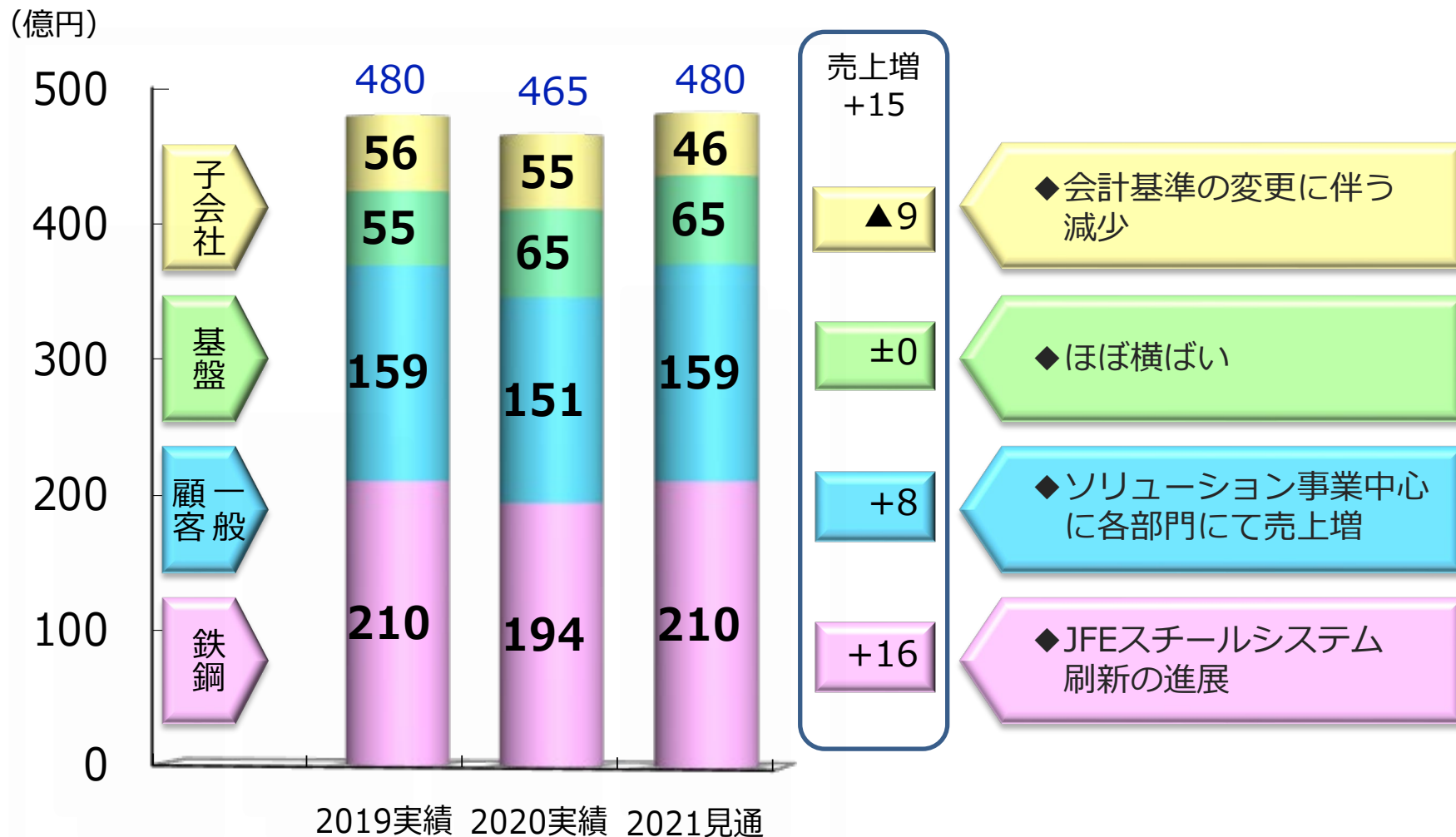
- ◆ 売上高、経常利益ともに過去最高であった2019年度の水準まで回復の見通し。

単位：百万円

	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	
			金額	率
売上高	46,468	48,000	+ 1,532	+3.3%
営業利益	4,666	4,760	+94	+2.0%
経常利益	4,698	4,800	+102	+2.2%
(経常利益率)	10.1%	10.0%	△0.1ポイント	
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,086	3,100	+14	+0.5%

決算情報 -3.2021年度見通し(部門別売上)

◆ 主力事業である鉄鋼・一般顧客向けを中心に売上回復



決算情報 -4.売上・利益の推移(2011-)

- ◆ 昨年はコロナ禍も一定の収益を確保し、売上500億円弱、経常利益50億円弱の規模に到達・定着
- ◆ 利益率はこの8年間で約4倍に。(ROS;2.6%['11]→10.1%['20])



◆ 近年の収益拡大に伴い、強固な財務基盤・収益体制を確立

自己資本比率

56.4%

(2021年3月末)

ROE(自己資本利益率)

16.1%

(2021年3月期)

本日のアジェンダ

1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント（＝新たなステージへ）
4. 成長戦略（次期中期経営計画）

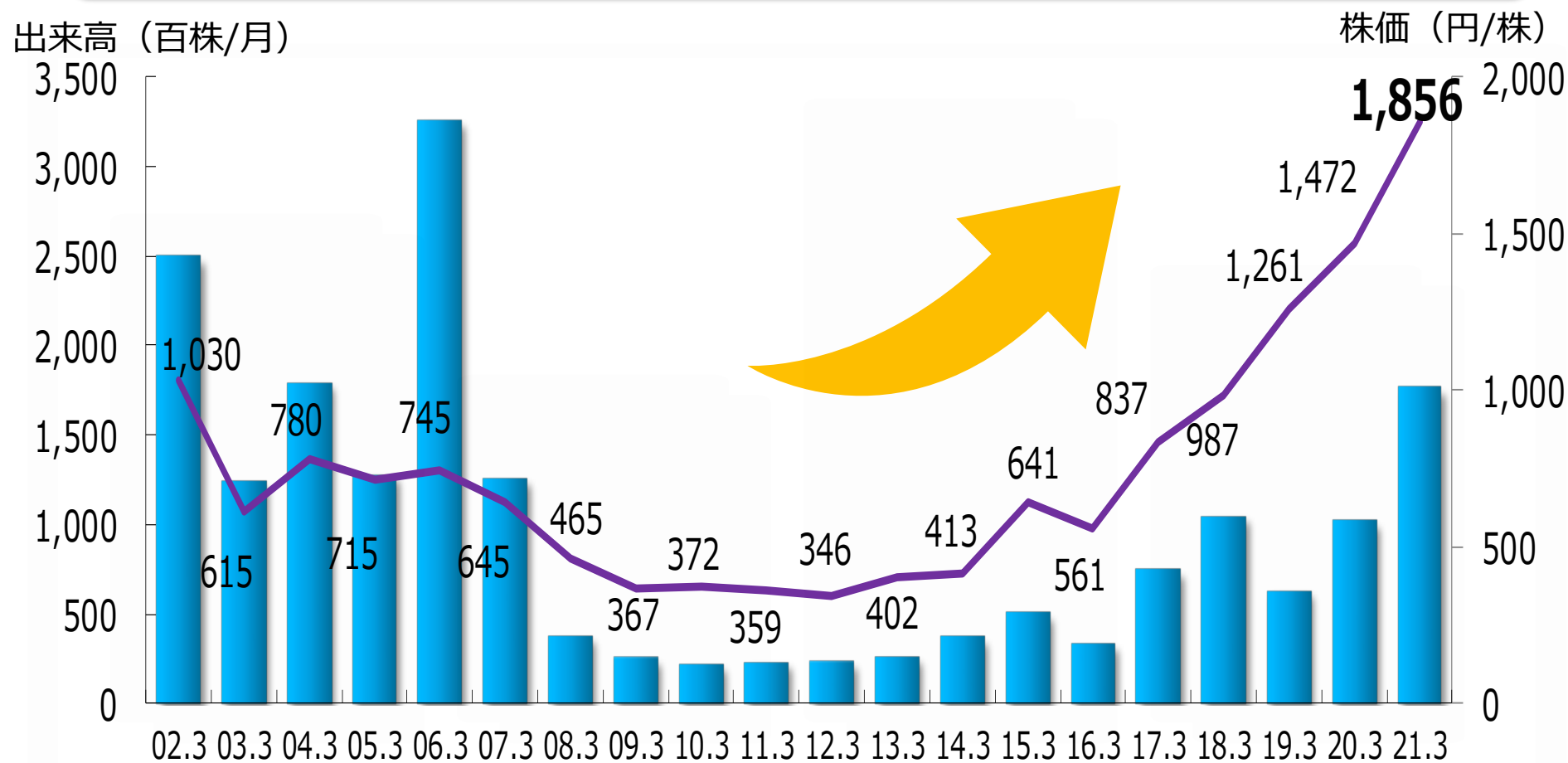
株式関連情報 -1.基本情報



発行済株式総数	15,706,000株 (2021年4月1日に1:2の株式分割を実施)
株主数	3,170人(2021年3月末)
大株主	JFEスチール(株) 65.16% JFEシステムズ社員持株会 7.50%
時価総額	269億円(6/30終値 1,712円にて算出)
PER・PBR	8.68倍・1.32倍(6/30終値/'21見通し)
配当利回り	3.50%(6/30株価/'21予想60円/株)

株式関連情報 -2.株価・出来高推移

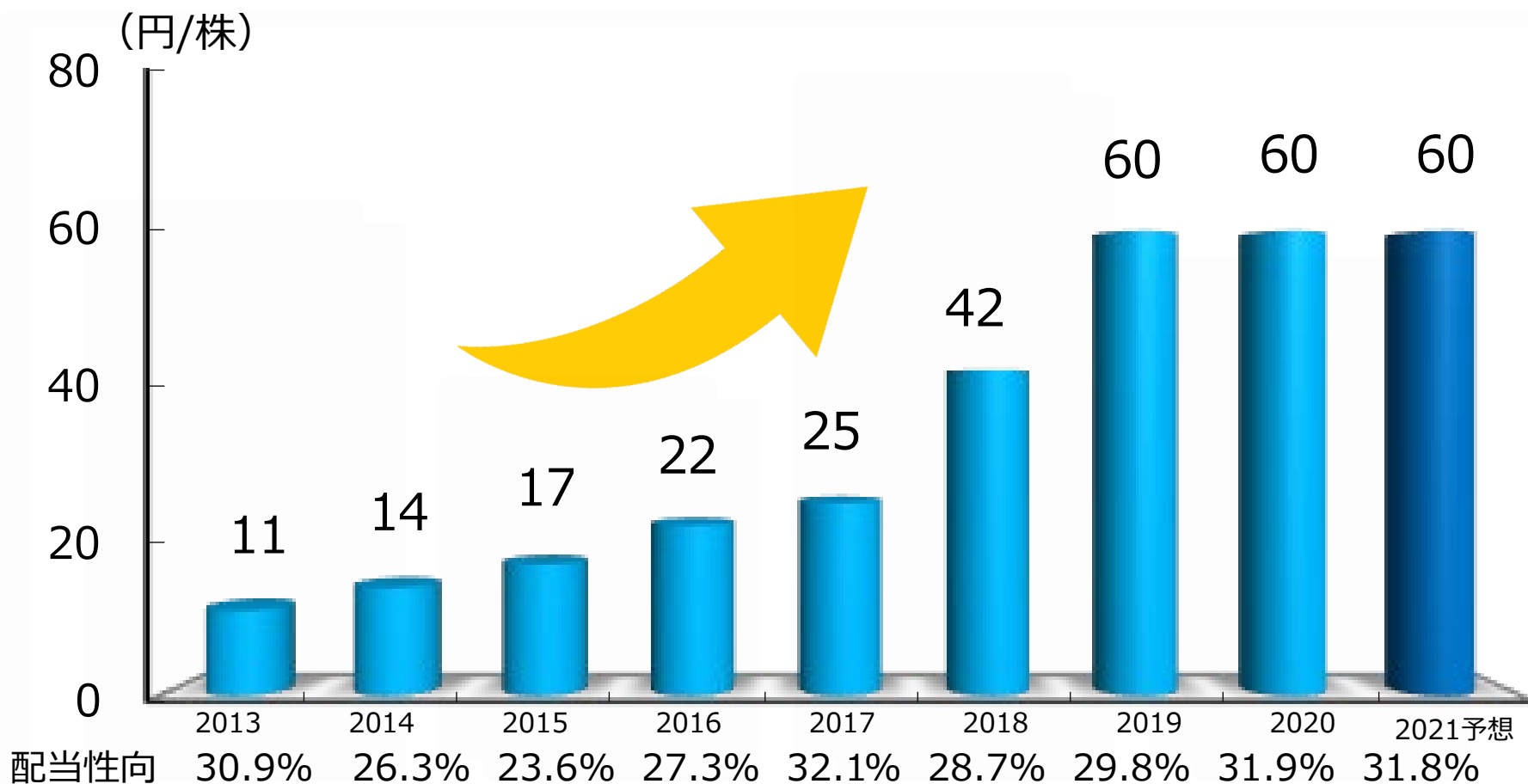
- ◆ 株価は一時期の低迷を脱し、近年は大幅上昇
- ◆ 出来高は低水準ながらも、近年の株価上昇にあわせて増加基調



株価は年度末終値(分割換算)、出来高は各年度の月間出来高の平均値

株式関連情報 -3.配当推移

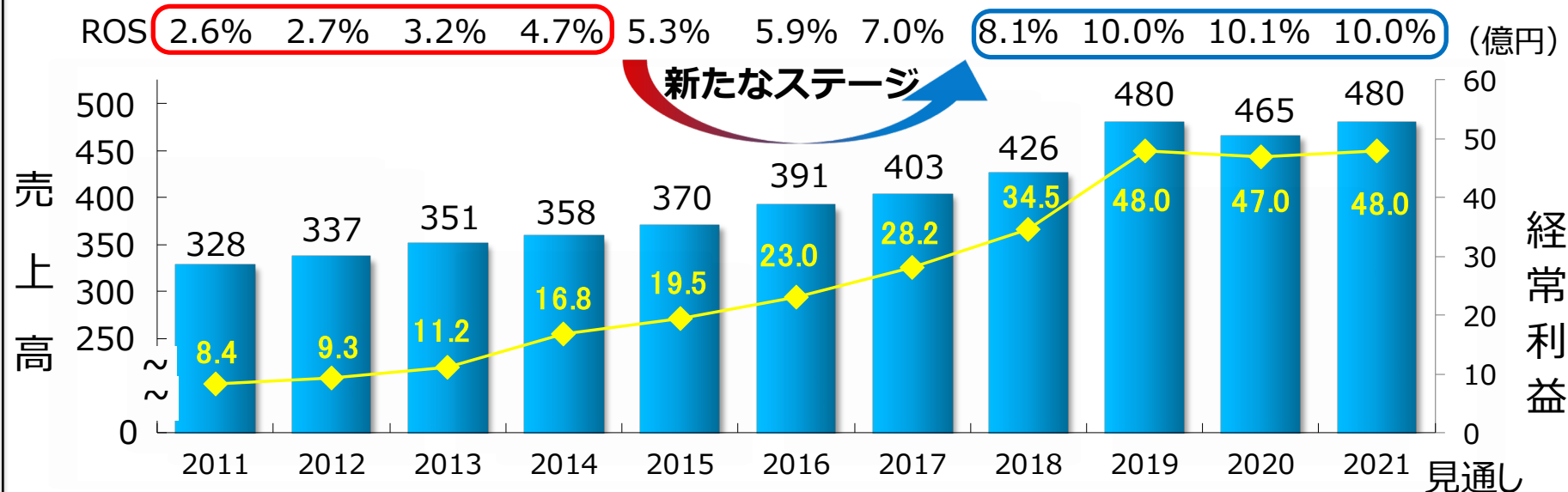
- ◆ 前中期経営計画の初年度(2018)に「配当性向30%目途」の方針制定
- ◆ 今期予想は3期連続の過去最高水準、5年前の約3倍に相当



本日のアジェンダ

1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント（＝新たなステージへ）
4. 成長戦略（次期中期経営計画）

この数年で安定・高収益体質を確立



人事施策への 取組み

2014・女性活躍推進に着手
2015・働き方改革に着手
2018健康経営宣言を公表

事業環境・ 体制整備など

2015・JFEスチールが製鉄所システム刷新PJに着手
2015・ソリューション事業の強化
2017・基盤事業部発足
DX推進部の新設・2021

人事施策の取り組みの成果

情報通信産業は、装置産業(ex製造業)とは異なり、製造コストに占める“ヒト”の比率が高いことから、特に**人材確保・育成**に注力。

◆働きやすい職場環境の構築

- ・男性育休取得**13%以上(女性;100%)**の達成
- ・出産後の女性の1年以上の継続就業**100%**

◆女性活躍推進のための施策

- ・育児中の部下を持つ管理職向け研修（イクボス研修）の実施
- ・女性の継続就業を後押しすべく**メンタリング**を実施



◆「働き方・休み方改善活動」の展開

→総労働時間の削減

◆「心の健康づくり計画」=メンタルヘルスケアの充実



プラチナくるみん

社員の子育てをサポートする企業のうち、より高い水準で取り組む企業を認定



えるぼし

女性の管理職比率等、女性活躍に関する一定の基準を満たした企業を認定



健康経営優良法人

当社の取り組みであるメンタルヘルスケアの充実等が評価され3年連続受賞中

人事施策の推進と共に、**ガバナンス体制**の強化も推進。

◆ 取締役人員構成の推移

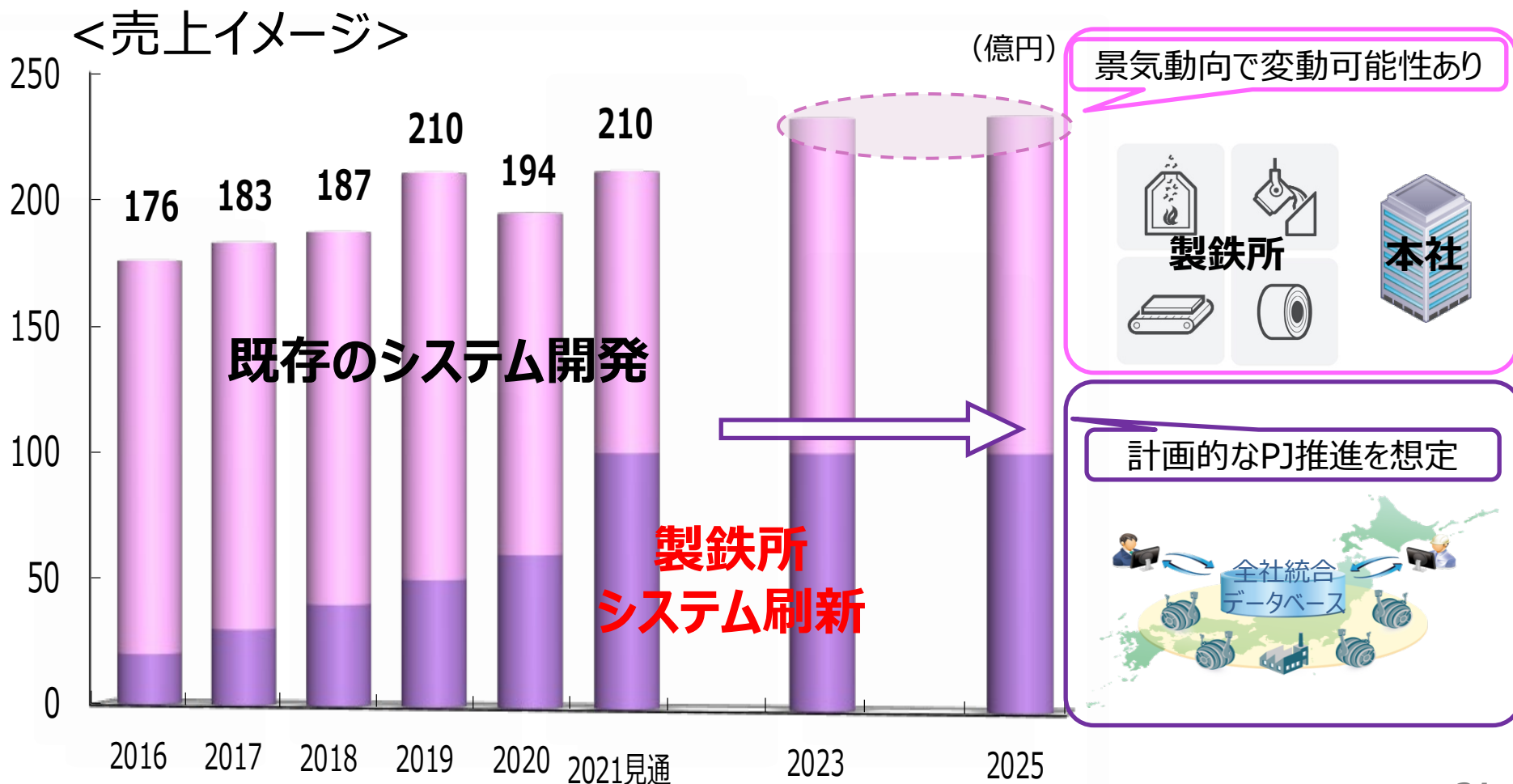


年 月	～2020. 6	2020. 6～	2021.6～ (現在)
社内役員(a)	8 人	9 人	7 人
独立役員(b)	1 人	2 人	2 人
比率($b \div (a+b)$)	11%	18%	22%

先月(2021.6)改定されたコーポレートガバナンス・コードにおいて、支配株主を有する上場企業は**独立役員1/3以上**とすべき、とされていることを踏まえ、更なるガバナンス体制の強化を進めていく。

鉄鋼向け事業の見通し

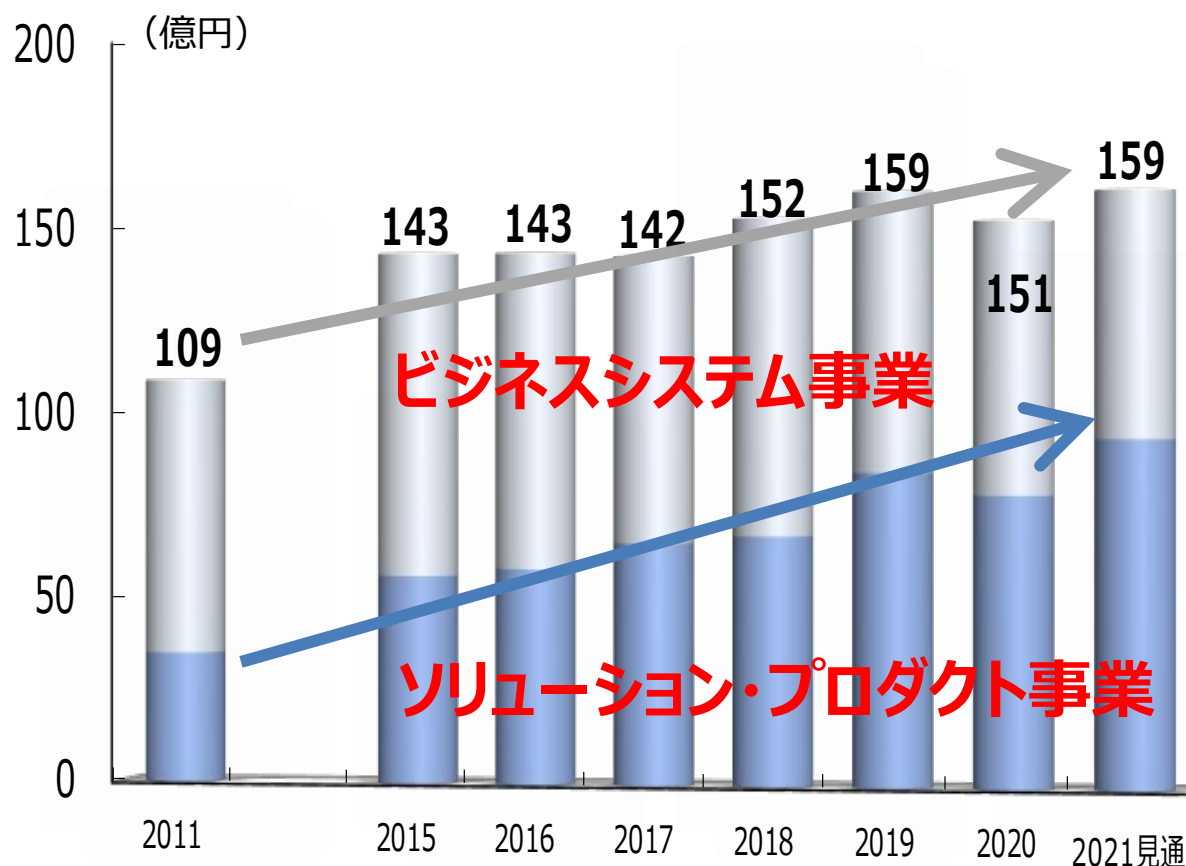
「鉄鋼向け事業＝JFEスチールの事業環境」という構図から、今後数年は大規模PJ(製鉄所sys刷新)での**計画的なシステム開発**が継続予定



一般顧客向け事業の見通し①

これまでの推移

顧客の要望をもとに開発を手掛けるビジネスシステム事業を維持・継続しつつ、ERP・パッケージを主体とした事業が急速に伸長



一般顧客向け事業
全体で

約 150%

うち、ソリューション・
プロダクト事業では

約 270%

一般顧客向け事業の見通し②

目指す方向性

ソリューション・プロダクト事業；時流に沿ったビジネスチャンスを捕捉

ビジネスシステム事業；先進的な顧客の取組みに呼応し、
新技術・ノウハウを蓄積

<事業イメージ>

ソリュー
ション・
プロダクト
事業



SAP S/4HANA®

世界標準のERP

2027年のサポート終了に向けた更新
需要を捕捉



電子帳票システム

FiBridge® II

電子帳票の自社パッケージ

コロナ禍でのリモートワーク需要を捕捉



MerQurius
innovate on your brand

食品商品情報管理の自社パッケージ

「食の安心安全」が注目される中、大手
食品メーカーを中心に高シェアを確保

ビジネス
システム
事業



自動車



金融

ローコード開発



reseller
cloud alliance
partner

新たな取り組み（DX）

JFEスチールグループを含む、製造流通業界向けのデジタルトランスフォーメーションの推進部署としてDX推進部を新設

J F E スチール

JFEグループ各社

JFE以外の
製造・流通業顧客



DX銘柄2020
Digital Transformation
6年連続受賞中*
(JFEHD)



J F E システムズ

D X 推進部



コグニ
ティブ

UX

予知・
予測

最適化

鉄鋼部門

一般顧客
部門

⋮



自前での新分野・新技術の開拓だけでなく、
豊富な手元資金を活用し、M&A等を通じ、
加速度的な事業拡大も可能



1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント（＝新たなステージへ）
4. 成長戦略（次期中期経営計画）

次期(7次)中期経営計画(2022-24)について

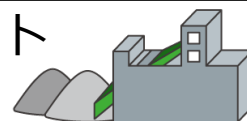
各事業部門にて、10年後の生き残りのための企業体質強化に向けた具体策を検討中。(2022年4・5月頃公表予定)

担当部門

7次中期経営計画の方向性

鉄鋼部門

- ・ 製鉄所システム刷新プロジェクトの積極推進
- ・ JFEの最適生産体制構築への対応



一般顧客 ソリューション ・プロダクト

- ・ DX関連事業の強化・拡大
- ・ ソリューションラインアップ拡充



一般顧客 ビジネス システム

- ・ 引き続き、各事業の強化・拡大を推進

基盤部門

- ・ 基盤サービス事業の更なる拡大
(一般顧客向け拡販を含む)



おわりに（まとめ）

近年の各種施策への取組み、事業環境の好転・大規模PJ等により、
収益水準は新たなステージへ **[500億円規模・ROS10%]**

好調な事業環境・収益の下、**配当も過去5年間で3倍に！** かつ
安定配当を指向。

鉄鋼向け事業は、大規模プロジェクトの遂行で、**景況に影響されない
一定の売上確保**が見込める状況が継続する見通し

新たな分野への取組みの母体として**DX推進部**を新設。**豊富な手元
資金を活用し**、新技術・新分野への加速度的な事業拡大も可能

ご清聴ありがとうございました

JFE システムズ 株式会社 [4832]

(ご注意)

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となることをご承知おき願います。

質 疑 応 答